つくしジャーナル　第６号

第６号　令和５年２月１０日発行

社会福祉法人 和歌山つくし会

本　部　和歌山県和歌山市吉礼字八ツ井486番地の１
TEL：073-488-7470
FAX：073-478-1900

事務局　和歌山県岩出市中迫665
TEL：0736-69-1772
FAX：0736-69-5251

特集「コロナ第７波を乗り越えて」

1．ごあいさつ「利他の心」
森下　宣明　社会福祉法人　和歌山つくし会　常務理事

2．「令和４年を振り返って」
岡　孝江　つくし幼保園　園長
木村　雅紀　つくし医療・福祉センター　副院長

3．特集「コロナ第7波を乗り越えて」
中前　鹿奈　つくし医療・福祉センター療育部長
永岡　佐和子　広瀬幼保園　主幹保育教諭
貴志　浩之　つくし医療・福祉センター　医事課長
田村　佳寿紀　つくし医療・福祉センター　管理栄養士

4．つくしっ子連載
連載第３回　川野　琢也　つくし医療・福祉センター　リハビリテーション課　課長

5．研修レポート「社会福祉援助技術論について」
亀山　美幸　和歌山乳児院　里親支援専門相談員

6．つくしっ子インタビュー！
北尾　朋子　つくし医療・福祉センター　指導員「入職６カ月を経て」

7．つくしっ子ニュース！！
瑞宝単光章受章　長谷　ノリ子　和歌山乳児院　乳児部主任
厚生労働大臣表彰受賞　永岡　佐和子　広瀬幼保園　主幹保育教諭
全乳協会長表彰受賞　亀山　美幸　和歌山乳児院　里親支援専門相談員
和歌山県白梅賞受賞　部谷　匡子　つくしの里こども園　主任保育士
令和４年度 和歌山つくし会 永年勤続表彰者

8．つくしの里こども園，広瀬幼保園　秋の運動会

9．つくしっ子　もふもふニュース！「愛嬌担当！サニーです」
柏木　千佳子　広瀬幼保園　保育教諭

10．つくしっ子レポート！
「月野名誉院長先生、傘寿のお祝い申し上げます！」
「山中 静先生、事務所開設 70 周年おめでとうございます！」
「広瀬幼保園に新しい遊具がやって来ました！」

11．和歌山乳児院クリスマス会
「アンパンマン、ばいきんまんサンタがやってきた！」

12．編集後記

ごあいさつ「利他の心」

社会福祉法人 和歌山つくし会　常務理事
森　下　宣　明

当法人の理念の「つくす」は、初代理事長谷本千鶴先生の「世の子どもたち、障がいのある方、社会的弱者のためにつくします」という思いを一言で表したものである。

新型コロナウイルス感染症対応の最中、東欧ではロシアのウクライナ侵攻により国際秩序が脅かされ、極東の我が国の国民生活にも物価高騰の波が押し寄せ、各施設の経営状況も油断のならない状況となってきています。

先日、コロナにより１年延期していた山中会計事務所による外部監査の予備監査を受けました。コンプライアンスと経営の透明性を担保するためです。

社会福祉法人は営利企業ではありませんが、収支がマイナスでは立ち行きません。病院や施設としての一定の収入の見込みがあり、人件費、事業費、事務費の適正な執行と、将来を見据えた減価償却費の積み立てを確保することが必要です。

当法人では、中長期計画やＢＣＰの作成により、将来を見据えた経営計画を作成するとともに、各施設の財務の健全化をはかるため、理事長をトップとする各委員会を立ち上げて検討しています。

京セラの故稲森和夫氏の本の中に次のことが書かれていました。

私たちの心には「自分だけがよければいい」と考える利己の心と、「自分のことはさておいても他の人を助けよう」とする利他の心があります。

利己の心で判断すると、自分のことしか考えていないので、誰の協力も得られません。自分中心ですから視野も狭くなり、間違った判断をしてしまいます。

一方、利他の心で判断すると「人によかれ」という心ですから、まわりの人みんなが協力してくれます。また視野も広くなるので、正しい判断が出来るのです。

「つくす」という法人理念と「利他の心」には相通じるものがあります。

当法人の理念「つくす」を具現化するためには、各施設の経営を安定させるのはもちろんのこと、ひとえに「利他の心」をもつ職員集団となることが求められています。

法人の１０年先、２０年先を考えると、今やらなければならないことは何か、自ずと答えは導きだされるはずです。

令和４年を振り返って
「コロナ禍の中での感謝」

つくし幼保園　園長
岡　　孝　江

新型コロナウィルス感染症が広がり始めて３年。このコロナ禍の中において、多くの皆様にご理解とご協力をいただき、運営ができましたことに心より御礼申し上げます。

さて、今年１年を振り返ってみますと、正月明けから遊戯会を開催するか否かの検討に始まり、結果、昨年と同様に中止とし、クラス毎に子ども達の演技をＤＶＤに収めて各家庭に配ることにしました。しかし、５歳児にとっては幼保園での最後の遊戯会となること、この２年間たくさんの皆様方の前で演技したことがないことから、せめて５歳児だけでも発表の経験をさせてあげたい、子ども達も保護者に観て欲しい、保護者も成長した姿を観たいだろうとの思いから発表する機会を持ちました。

当日は密を避けるため、保護者の出席は各家庭１名として、入室前には検温と手指消毒、マスク着用をお願いし、間隔をとった指定席で観ていただくことにしました。子ども達は本当に嬉しそうに生き生きと演技をし、その姿を保護者も満足そうな笑顔で見守り、とってもほのぼのした気持ちになりました。

その後も、コロナ感染予防対策として、マスク着用、窓等の開放、極力密を避ける、接触箇所は１日２回のアルコール消毒を行うなど、衛生管理を徹底しましたが、コロナウィルスの感染を防ぐことができず、５歳児クラスで陽性児が判明し「学級閉鎖」することになり、続いて４歳児クラスも「学級閉鎖」となりました。その度に保護者やその勤務先にまでご迷惑がかかっていることを心苦しく思いました。

また、炊事場の職員４名中１名が陽性となった時は、一緒に働いていた職員も濃厚接触者となり、休むことになりました。しかも急なことで各家庭にお弁当持参のお願いもできず、その日の食材は配達されるが、調理する職員がいない状況となり、乳児院から急遽栄養士を派遣していただくとともに、職員の応援により食材を無駄にすることなく、何とか子ども達に給食を提供することができました。そして、食材の納入業者も注文変更や返品に快く協力してくださいました。

そんな日々の中、とても嬉しかった出来事がありました。それは、保育教諭１名が病休、もう１名が「子どもの園が学級閉鎖」となって休むことになった上、３歳児クラスで園児１０名とクラス担任等職員５名がコロナ陽性となり、園運営が難しくなった時のことです。

すぐに保護者に「５日間のうち家庭保育のできる日があれば協力して欲しい」とメールを送信しました。すると、多くの保護者から家庭保育のできる日を申し出ていただき、その間の出席児は半数近くまで減り、無事に保育を行うことができました。そのときは、皆様方のご協力が本当に有難く、感謝の気持ちで胸が熱くなりました。

その後もコロナ関係で休む保育教諭がいましたが、如何にすれば子ども達にしわ寄せがいかない保育ができるか、全職員で助けあいながら頑張ってまいりました。

そして、日々、子ども達がコロナに感染しませんように、１日も早くコロナが終息しますようにと祈りながら、保育運営に努めています。

どうか、今後とも皆様方の温かなご理解とご支援を賜わりますようお願い申し上げます。

『令和４年を振り返って』

つくし医療・福祉センター　副院長
木　村　雅　紀

冒頭の特集だそうですが、ここ何年かのコロナ禍でひたすら仕事に没頭？するのみ。

お国のお膳立てでの全国旅行支援云々も大っぴらに旅行も叶わぬ医療従事者でしょうか。そんな事で楽しいお話も出来ませぬ故、つくしに奉職してからの思い出を少しだけ綴らせて頂きお役御免を。

平成２１年、当時民間病院産婦人科でお産や子宮筋腫の手術等を創設者の理事長や息子さんの副院長と和気藹々と過ごし、夜中のお産も厭わず駆けつけ、随分羽振りの良い生活をしておりました。しかし時代は流れ理事長ご逝去、副院長も病いに倒れ世は産婦人科暗黒時代に突入。とても非常勤ドクター方のお力を借りても立ち行かなくなり、とうとう自らも古傷が再発し自力で救急外来を受診し切腹とあいなった次第。

数ヶ月は浪々の身でしたがご縁あって当センターをご紹介頂き勤め始めました。

重症心身障害の患者さんなど全くお相手した事無く、一から見様見真似での療育棟仕事でしたが、当時の先生方も転職やご高齢となり、先日は奥先生もご勇退、今では常勤として月野名誉院長に次ぐ職歴となりました。

当初よりお勤めになられていた間先生、津秦先生には、今もリハビリ外来をお手伝い頂き親しくさせて頂いています。その後、澤田先生、飯塚先生ら小児科専門医が次々ご入職され今ではそれなりの施設に発展した様子。コロナ禍前はセンター職員の親睦として慰安旅行や忘年会が華々しく開催され、とても楽しかった思い出が沢山ございます。

慰安旅行のバスが玄関を発車するやいなや缶ビールでの乾杯が始まり、最初の目的地のビール工場や酒蔵に着く頃にはほろ酔い気分。昼は昼とてランチにはビール、観光地では些か足許がおぼつかない事もありました。夜の宴会は更に拍車をかけての飲み放題も今やはかない夢の様です。

先日高校の同級生が各地で復活したバスツァーに参加した折、問診票、ワクチン接種証明、身分証明書の提示、検温が実施され身分証明書忘れで乗れない方も居たと。車内ではマスク着用、飲食禁止（アルコール以外の水分は可、昼食時の車外での飲酒は可）大声の会話禁止云々と伝えてきました。これではとても楽しいツアーとも思えず、内心諦めもつくものかなと。ホテルでの大忘年会、ビンゴゲームも幾久しくご無沙汰です。

再び職員同士の親睦が図れる日が来るのを祈るばかりです。（コロナ第８派を恐れる頃にて。）

『コロナ第７波を乗り越えて』

つくし医療・福祉センター　療育部長
中　前　鹿　奈

２０２２年８月７日に職員１名が新型コロナ感染症陽性となりました。感染が判明し、６日目の朝自宅で出勤準備をしていた時に療育棟から電話が入りました。「今日の日勤の出勤者が誰も来ません！」

早出育成職員の悲痛な声が今も忘れられません。

職員の陽性が判明した後、体調不良の利用者も見受けられず利用者、職員全員を検査しても今までのように陰性の確認ができると考えていました。しかし、２日後の検査結果で利用者２名が陽性者と判明。８月に入り、新型コロナ感染症の流行を鑑み、課長会と感染委員で議論を重ね、感染時のシミュレーションを行いました。そのことにより、物品の準備や初期対応はスムーズに取り組むことができました。

幸い利用者も感染が判明した時点では症状もあまりなく、このまま乗り切れると考えていました。

しかし症状が軽いと思った利用者も、発熱や症状悪化により救急搬送。利用者の検査を行う度に増える陽性者、その度にゾーニングを変え陽性者の部屋移動。発症が分かってから１週間も経たずに第３療育棟で働く職員も次々に体調不良を訴え陽性者に転じていく。第１療育棟、第２療育棟の業務を縮小し応援要請も行いましたが、応援の職員も次々に体調不良を訴え、陽性に転じていく。それでも代わりの職員を送り込まなければいけない。ここは戦場なのかと感じました。

ＰＰＥ（ガウン着用）Ｎ９５着用での業務の暑さ、辛さ、マスクを外して自分も感染すれば楽になるのではないか、そんな気持ちを抱えながら出勤し、感染せずに業務を全うしてくださった職員もいます。今回の変異株は症状も軽いような報道を見聞きしていました。しかし、陽性になり自宅療養の体調を伺う電話口の多くの職員からは、発熱、頭痛、咽頭痛、食欲不振などの辛い様子を聞きしました。感染してしまい、同居家族の体調を気にする不安、決して軽症では済まない現実を目のあたりにしました。

翌日の勤務調整もままならず、療養者の体調を聞きながら、早期の職場復帰を毎日のようにお伺いする。１０日経てば療養者が帰って来る、終わりは必ず来ることはわかっていても辛く苦しい３週間でした。

今回、幸いにも感染の判明したすべての利用者さんの命を守る事が出来ました。また、備品が不足なく感染対策が請じられたこと、休養中の職員も休業補償がされていたことに対し、つくし会の職員で良かったと心より感謝しております。

第３療育棟の振り返りについては課長・主任を中心に、今回感染対応に関わってくださった全職員にアンケート方式で行う予定です。今回、振り返りをするにあたり、いざ文面にしようとすると辛かった事が頭をよぎり筆が進みませんでした。今回経験した事を学びとし、コロナ対策マニュアルに反映させ、情報を共有し、感染にも強いつくし医療・福祉センターを改めて作っていきたいと考えます。

『コロナ第７波における取り組み』

広瀬幼保園　主幹保育教諭
永　岡　佐和子

コロナ禍も３年目に突入した２０２２年。広瀬幼保園では今年の８月から９月にかけて各クラスの子どもや職員が相次いで罹患し、クラス休園の措置をとる事になりました。その後は少しずつ落ち着きを取り戻しホッとしていたのですが１１月に入り、また新たに罹患者（子ども及び保護者、職員の家族など）が出始めています。全国的にも感染者が増加傾向にあると連日のニュースでも報道されており、一体いつになったら元のような生活に戻ることが出来るのかと考えたりします。

園における乳幼児の生活や行動の特徴として、集団での遊びや食事・午睡など子ども同士が濃厚に接触する事が多いので、飛沫感染や接触感染が生じやすい環境であり留意が必要です。子ども自身が意識して感染対策（正しくマスクを着ける、友達と距離をとって遊ぶなど）を行うのは難しいため、大人からの援助や配慮が必要になってきます。広瀬幼保園でも早朝・延長保育を含めて合同保育の人数や時間はなるべく少なくし、特に乳児クラスと幼児クラスの合同保育はできるだけ避けるよう工夫しています。

今後、コロナとインフルエンザの同時流行が懸念される中、私達職員自身も今まで以上に体調や感染対策に気をつけながらも充実した遊びを子ども達に提供できるよう、皆で力を合わせ次の第８派を乗り越えていきたいと思います。

『コロナ第７波における対応』

つくし医療・福祉センター　医事課長
貴　志　浩　之

未だ収束の兆しが見えない状況の中、とうとうつくし医療・福祉センターでの感染が確認された時、事務所としてどのような対応が必要であるかを考えました。直接支援ができないものとして、また外部とのつながりがある部署として、いかに外部との接触を最小限にして業務を続けていくのかが課題となり、スタッフの方々には診察の方法の変更や外来の停止といったさまざまな対応をして頂きました。

つくし医療・福祉センターで収束が見え始めましたが、全国的にはまだまだ収束とまではいきません。２年半前より始まった日本でのコロナウイルス感染症ですが、つくし医療・福祉センターにこれからの様々な感染症への対応を考えさせてくれたものとなりました。

感染症は目に見えないものであり、どうしても対応は後出しになりがちになります。しかし、普段から予想し、予防することにより防げる確率も増えてくるものなので、今後も続けて感染症対策に事務スタッフとして続けていきたいと思います。

『コロナ第７波における衛生対策』

つくし医療・福祉センター　管理栄養士
田　村　佳寿紀

「百聞は一見にしかず」会議や研修などでコロナ感染の症例を聞き、「食事提供を止めない」という点を重視して、ある程度、対応内容を給食委託業者と練っていましたが、わずか２日で、想定していたコロナ感染対策の範囲を超えました。

一度、広がってしまった感染に対して厨房から出来る事は多くなく、看護師、育成職員からの要望に対応していく事しか出来ませんでした。幸い、厨房内にコロナ陽性者がおらず、病棟からの要望に人海戦術で対応する事が出来ました。さらに、お盆の時期という事もあり、急な物品の確保が困難でしたが、地元業者さんの協力もあり、物品を何とか確保する事が出来ました。

厨房内では、他の療育棟へ、厨房経由で広めないようにしようと、いつも以上の衛生対策を実施しました。今、振り返ればかなり神経質な対策となっていたように思います。

今回の反省点として、「食事の提供を止める事の無いように」という考えを重視していましたが、食事を食べさせてくれている人が居ないと入所者の方は食事をする事が出来ない、という視点が欠けていたというのが大きかったと思います。

第７波を乗り越えて、療育棟スタッフの底力の凄さを実感すると共に、厨房内、地元業者の協力体制に心から感謝しています。

つくしっ子連載

連載 第３回

「イタリアで見つけた共生社会のヒント」③

つくし医療・福祉センター　リハビリテーション課　課長

川　野　琢　也

今回はイタリアのフルインクルーシブ教育について記します。連載第１回目でも記しましたが、イタリアは１９７０年代に特別支援学校や特別支援教室（学級）を廃止して、障がいのある児童も地域の学校で教育を受ける方針に転換しました。２００８年の経済協力開発機構（OECD）資料によると、特別な教育ニーズのある子の９９.６％が通常学級に、０.４％が特別学校に在籍しているとのことです。まず基本情報としてですがイタリアの教育課程は、小学校が５年間、中学校が３年間、高校が４～５年間となっています。また、私たちが訪問したローマのアントニオ・ロスミニ小学校は１クラス２７名定員となっており、障がいのある児童が１人在籍すると定員は２５名に、２人在籍すると２２名といったように１クラスの人数は少なくなるシステムになっていました。ちなみに日本は１クラス４０名（小学校１年のみ３５名）の定員です。さらにクラスには担任の先生以外に「補助教員」「基礎アシスタント」「専任講師」「保護者」「セラピスト」「ボランティアスタッフ」など多くの支援者が入り授業が行われています。さらに、イタリアにはAUSL（地域保健機構）といった日本でいう保健所のような公的機関との連携がしっかりととれているところも特徴的です。AUSLには医師、セラピスト、心理職、社会福祉士などの専門家が在籍しており、障がいの認定だけでなく障がいの種類や程度および症状について整理し、発達の可能性について保護者も交えて学校現場と共有します。これらを基にして、特別な支援を必要とする児童には個別教育計画が作成され、それを基に授業がおこなわれています。

前置きが長くなりましたが、ここからは写真を交えて視察の様子を記します。

写真①
ローマにある
「アントニオ・ロスミニ小学校」

小学生は１～５年生で、全校で１１クラスあります。すべてのクラスに障がい児が在籍していました。学校は８：３０～１６：３０で放課後活動もしており、音楽教育に力を入れている学校でした。

写真①

写真②

写真②
筋疾患の児童（電動車椅子の児童）の体育の授業
体育館で先生の号令に合わせて動いたり停まったりを行っている場面です。電動車椅子の児童も同じプログラムで授業に参加していました。

写真③
外部講師によるダウン症の児童（左端）の音楽の授業
音楽に合わせて体を動かすリトミックのような授業でした。集団からはみ出たり遅れたりするとさりげなく友達が誘導する場面が見られました。

写真③

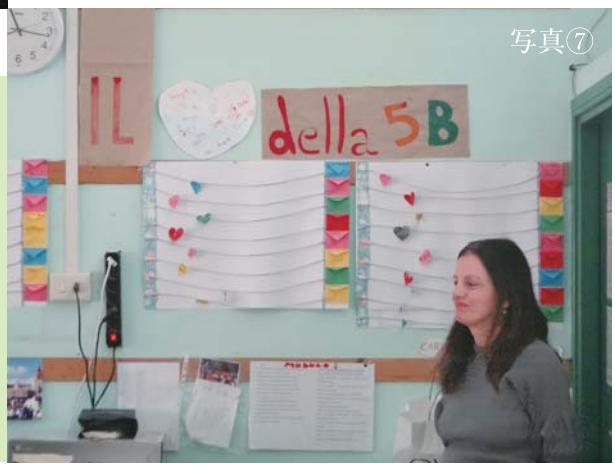
写真④

写真④
自閉症の児童の算数の授業
線の上を走るロボットを使い数字の形を学んでいます。担任以外に補助教員やボランティアなど様々なスタッフが支援していました。

写真⑤
４名程度のグループに分かれての授業です。このクラスでも担任と２名の支援者がそれぞれのテーブルの支援に入っていました。

写真⑤

写真⑥
白血病の児童（黄色い服の児童）の アートの授業
障がい児だけでなく病弱児も一緒に学んでいました。このクラスにも担任の先生以外の支援者がいました。



写真⑦
目標への進捗状況を示す壁面飾り
個々に立てた目標に向かって左端から右端にハートを移動させ、自分が現在どの位置にいるか管理していました。自分で目標を立て、進捗状況を視覚化しているところがポイントです。

これらのようにフルインクルーシブ教育を支えるために様々な仕掛けがありました。一番特徴的だったのは、教師だけでなくたくさんの人々が教育に携わっていることでした。それが国・地方自治体・学校単位・保護者・地域のボランティアなど様々なレベルで子どもたちの成長を支え、多様性を認め合う環境になっていました。後日談ですがイタリアの教育大学教授の方が「学校は教科学習をするだけの場所ではない。大人になるうえで社会の仕組みや多様性について学ぶ場所でもある。」と語っていました。他人のことを知り、自分のことも知ってもらうには【子どもと子ども】だけでなく、【子どもと大人（教師や支援者）】、【大人と大人】など多くの対話が必要になると思います。このような環境が自然とインクルージョンな社会の形成につながってくるのではないかと考えます。

さて、２０２２年９月９日に国連が日本に対して障害児の分離教育中止を勧告したことはご存じでしょうか。日本は２０１４年１月に障害者権利条約に批准し締約国となりました。この条約に対する日本へのジャッジが初めてされ、今回の勧告という結果となりました。今回の勧告は、分離教育の中止だけでなく精神科の強制入院を可能にしている法律の廃止も求めています。今後の日本政府の動き、そして当事者や障害者団体の動向に注目したいです。

研　修　レ　ポ　ー　ト

「社会福祉援助技術論について」

和歌山乳児院　里親支援専門相談員
亀　山　美　幸

私たちが生きて生活を営む中で、様々な困難な状況に直面する事が起こりえる。身体的・精神的な病気のこと、認知症や要介護状態にある親の介護のこと、ひとり親家庭や子どもに障害があるなど子育てに伴うこと、いじめや不登校など就学や学校生活でのこと、非正規雇用やリストラなどの就労に伴うこと、家庭における経済的なことや家族関係のことなど、様々なことがあげられる。それらの困難を前に、時には自分や家族だけの力では解決できずに行き詰ってしまうことがある。あるいは、支援やサービスにつながらず、孤立した状態で困難を抱え続けることがある。とくに今日のような変化が激しく、かつ複雑な社会状況のなかではこのような生活問題は決して個人や家族だけで抱えるべきことではなく、またそのすべてを個人や家族だけで解決していくべきことでもない。同じような立場や状況におかれれば、誰にでも起こり得る可能性のあることなのである。そして、その背景には、前述したように何らかの社会的、地域的、環境的な要因があるという認識が重要である。また、現在社会のなかで様々に生じる生活問題や困難状況に対しては、地域の課題や社会の問題としてとらえることが大切である。そして、そこにこそ個人や家族への直接的な支援と、地域の在り方や社会環境の改善とを一体的にとらえた方法や実践としてのソーシャルワークの必要性と可能性がある。地域で暮らす人々が、必要なサービスの情報を得ることができ、かつ必要なときに利用できるように、情報提供やサービスの調整等のしくみを開発すること、また住み慣れた場所でだれもが孤立することなく、安心して暮らしていける地域づくりのための働きがソーシャルワークの機能として求められている。

【人と問題を多面的に理解しようとする「総合的・多面的アセスメント」】

「総合的・多面的アセスメントで着目すべきポイント　アセスメントで着目すべき大項目」

1　利用者の問題意識
2　主訴―利用者は何が問題だと述べているのか

3　問題の具体的な特性
4　利用者の問題のとらえ方
5　利用者の特性―利用者はどのような人か
6　利用者の問題理解に必要な固有の情報
7　利用者の問題対処力
8　問題対処に関する出来事・人・機関とその結果
9　利用者のニーズと問題との関連性・今後の問題対処に必要な資源

このアセスメントを用いることのメリットの一つは、利用者の問題を理解する際に、「利用者の努力が足りない」「このような利用者を援助するサービスが不十分だ」と単純に個人や環境のどちらかだけに原因を求めようとしないことだといえる。アセスメントの結果として、個人か環境のどちらかにより大きな問題があることがわかり、それを支援の焦点にすることはあるが、そのような結論に達するためには様々な側面と、それらの相互関連性を考慮していくプロセスははずせない。

ソーシャルワークにおいてワーカーは自分自身を道具としてクライエントの支援にあたる。道具を使うためにはその道具の役割、特性、そして使い方を熟知しておかなければ、使い方を間違えてしまうことにもなりかねない。そのため、ワーカーは、ワーカーとしての自分の役割、特性そして使い方を熟知することが大切である。ソーシャルワークを学びながら、自分を知り、また、ソーシャルワークを実践しながら自分への理解を深めていく継続した努力が求められる。ソーシャルワークの過程においてはクライエントとクライエントを取り巻く社会環境、そしてその関係を知ろうとする努力が求められる。

社会福祉専門職にとって、共通の目的に向かって質の高い仕事をする支援チームの形成やグループを運営する技術であるファシリテーション力をつけることが必須である。多職種連携をはじめ、他の専門職や専門家との連携、協働は困難であるが、それぞれがアセスメントの角度が違うからこそ学び合うことができる。お互いに同じ目標に向かって歩み寄る事が必要である。

つくしっ子インタビュー！

「入職６か月を経て」

つくし医療・福祉センター指導員
北　尾　朋　子

本年７月につくし医療・福祉センターに入職されました北尾朋子さんにインタビューに参りました。

北尾さんはもともと福祉職のベテランでいらっしゃった、と伺っておりますが、こちらでのお仕事状況は如何でしょうか？色々とお話を聞かせて頂きたく思います。

１．現在はつくし医療・福祉センターの指導員としてお仕事をして頂いていますが、以前はどんなお仕事をされていたのでしょうか？

相談支援専門員という職種です。障害のある方、そのご家族、関係機関などの相談支援の仕事を主にしておりました。

いわゆる直接的な相談支援だけではなく、ソーシャルワークと言われるような社会資源への働きかけ、あとは地域作り、というような働きかけもさせて頂いていました。

２．岩出市の委託事業である障害者相談支援事業の管理者として、指導などもされていた関係で、つくし会の職員も色々と教えて頂いたということを聞いております。

相談支援というのは３層に分かれています。まず、計画相談という個別の支援、ケースワーク的なことに対する相談支援があります。次にサービスを使うかどうかに関わらず、障害のある方のための相談があります。その上に基幹相談センターというのがあります。相談支援などを行う人々のフォロー、バックアップ、その他相談支援をするにあたって地域で色々な体制作りをするのが地域の基幹相談センターの役割で、その中で人材育成にも関わらせて頂きましたので、研修の講師をする機会もありました。

３．管理者としての仕事をしながら、個別の相談支援のケースに直接関わるということもされていたのでしょうか？

そうですね、管理者をさせて頂いていましたが、私が個別に持っていたケースもありましたし、他の相談支援員が一人では対応が困難な場合は同行したり、全体の中の動きをフォローする、という役割をしていました。自分の事業所だけではなく、地域にもある相談支援事業所の相談支援員のフォローも行っていくのが基幹相談支援センターの仕事の一つです。

４．成程、やはり基幹を任されるというのは、岩出市におけるパイオニア、というか本当に知識のあるプロでなければ出来ないことだと思います。北尾さんの経歴などを見せて頂くと改めてすごい人が入職してくださったと思います。

いえいえ、自分以外にももっと経験のある方がおられますし、つくしさんにもベテランの方がいらっしゃいますので、たまたま自分がそのような役割であったのだと思います。

５．福祉の道を選択されたきっかけは何ですか？

そうですね、高校時代に大学進学を考えた時に、大学の４年間で学んだことを使えるような職種に就きたいと考えました。その中で興味を感じた社会福祉学部を選びました。具体的に先の仕事をイメージしやすかったし、心理学にも興味がありました。卒業後、たまたま障害福祉の世界で仕事を始めることになりましたが、そのまま１７年が経ちました。あっという間でした。

６．和歌山つくし会でお仕事を始められて感じたこと、印象はどうですか？

直接的な介護というのは初めての経験でしたので、日々仕事をすることに精一杯です。医療的ケアが必要な方や重度心身障害者の方々への支援の難しさを痛感しております。

体力的には問題ないですし、利用者さんと直接の触れ合いもあり、楽しく仕事をしています。ただ、今までと違うのは同じ職場に多職種の方々がおられるということで、それぞれの立場での考え方や、大切にしていることなどが見えてきました。そのあたりの難しさを感じています。

自分は周りの職員さん達から日々助けて頂いていると感じています。今は出来ることは少ないので、周りの迷惑にならないように頑張りたいと思います。

７．多職種の色々な価値観や違う考えの中で仕事をしていく上で、重要なポイントは何でしょう？

それぞれの職種の方が大切にしていることを自分も学ぶということがまず第一だと思います。

先日医療的ケア児コーディネーター研修に参加させて頂きましたが、福祉と医療の両面から考えていかなければならないことであり、その擦り合わせというのがとても難しいことのように思われました。そのためにはしっかり意見交換を行うなど、よりいっそうのコミュニケーションをもち、同じ方向を向いていくということが重要だと感じます。

8．休日は何をされていますか？　趣味など

以前の職場では休日も働いていることが多かったのですが、こちらに来てからは仕事の日と休日の区別をし、オンとオフ、ライフワークバランスが良くなりました。

以前は自由時間があっても自分の不足しているところを埋めようとしていたように思います。経験を積むためには時間がかかるものですが、知識の部分は時間の許す限り積み上げることが出来ます。足りない経験の部分を補うために時間をかけていたように思います。

今はドライブなどにも行きます。海に出かけてリラックスしたりします。海沿いのカフェに行ったり、テーブルと椅子を持って行って、渚でゆっくりと過ごしたりします。何も考えない時間を作るようにしています。

9．これから先、和歌山つくし会はどのようにしていくべきであると思いますか？

入職して半年で答えることは難しいですが、令和３年度に医療的ケア児の家族に対する法令が施行されました。国としても医療的ケア児・者の支援をより強化する方向に向かっています。在宅への移行がずっと言われている中で、家族さんの負担というのはまだまだ大きいと思います。

センターが地域において在宅支援の中核になるような施設になって、そのスキルを周りに伝え、より情報発信を行っていくようになれば良いなあ、と思います。私も、これからもっと学んでいきたいと考えています。

10. 精神保健福祉士、公認心理師など、色々な資格をお持ちですが、将来の目標・夢について教えてください。

障害福祉の世界はとても広く多岐にわたっています。今は医療的ケア児の方々への支援の現状や課題を学びながら、これまでの経験を活かしつつ自分に出来ることをしていく、ということが当面の目標です。模索中ですが、目の前のことを一つひとつして行ければと思います。

11. 発達障害の分野においてはどうですか？

以前相談支援で関わらせて頂きましたが、児童分野のところに直接的に関わる機会があまりなかったので、つくしでは乳幼児期からの関りをしていると思うのでそれについても学んでいきたいと思います。

12. 最近、発達障害といわれる子どもさんがとても増えているようですが。

教育の分野では診断書を求めることに走りがちであるので、病気と診断する以外に、学校現場で必要な人員を配置できるようなシステムも必要だと思います。

幼児期に適切な支援を受けることが出来なければ、二次障害がおきて２０歳以降に社会の中で適応できなくなってくるので、思春期においても適切な支援を受けることが大変重要であり、求められているということだと思います。

誰にでも得手不得手、偏りというのはあることなので、発達障害と線引きせずに得意な事をもっと伸ばしていけるような教育が必要なのでは、と思います。

13. 最後に、社会福祉法人の経営戦略についてはどうですか？

つくし会が行っている様々な実践を世間でもっと知って頂きたいと思います。

近年、合同会社や株式会社などが福祉に参入してきて、社会福祉法人の価値が世の中でわかりにくくなっているように思います。

他企業は新しいことを始める力があり、宣伝やアピールが出来ますが、社会福祉法人は外へ伝える力が出にくいように思います。しかし、社会福祉法人が長年培ってきた福祉の質の方が一般企業より高いので、目に見える事だけではなく、中での質の高さをどのように伝えるかが、より重要な課題だと思います。

５０年以上の歴史がある私たちの施設には初期からの入所者さんもおられます。福祉の質を保ちながら、今後も、また５０年後にも「つくしさんに来て良かった！」と利用者さんから言ってもらえるような施設でありたいと思います。

つくしっ子ニュース！！

「瑞宝単光章受章の喜び」

和歌山乳児院　乳児部主任
長　谷　ノリ子

令和４年秋の叙勲に際しまして瑞宝単光章拝受の栄に浴し、身の引き締まる思いでございます。

このような賞を頂けるとは思ってもいませんでしたので、受賞のお知らせを受けた時は耳を疑い驚きました。施設長から「おめでとうございます」とのお電話を頂き、喜びを得ることができました。

この受賞は私ひとりの力ではなく、これまで自分を指導してくださった先輩、自分を支えてくださった多くの皆様に支えられてのお陰と心から感謝致しております。

私は平成４年から和歌山乳児院で勤務し、３０年が経ちました。乳児院で子どもたちと一緒に過ごす中で子どもの成長を目の当たりにした時は、職員一同心から喜び合います。その時はとても明るい雰囲気になります。

日頃の養育を振り返ると、乳児院の役割も多機能化しています。現在、子どもたちの月齢も３歳、４歳と大きくなる現状で、養育のあり方の課題を工夫しながら改善できるように、施設長中心に検討しながら進めています。子どもたちと真剣に向き合い関わる中で、仕事に誇りとやりがいを感じています。

今後も人との絆を大切に真心で尽くし、仕事に精進してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

つくしっ子ニュース！！

「厚生労働大臣表彰受賞の喜び」

広瀬幼保園　主幹保育教諭
永　岡　佐和子

この度は厚生労働大臣表彰という名誉ある賞を頂きましたこと、心より光栄に思います。広瀬幼保園で働く中で皆様に支えられ、また励まされてここまで勤めさせていただきました。ありがとうございました。

ここ数年で私がよく考えるのは保護者支援の難しさという点です。保育所保育指針ではもともと「第６章保護者に対する支援」という項目がありましたが、２０１８年の改定により「子育て支援」に変更されました。園では子どもと共に保護者へのサポートも必要だとされています。保護者自身が支援を必要とする方（例　ＡＳＤ傾向が強い、知的理解がゆっくりであるなど）である場合もあります。私達保育者は「感情的な伝え方をしない。保護者を責めない。伝えるべきところはきちんと伝えるが、命令ではなく提案をする姿勢を崩さない。秘密は漏らさない。」等の点に気をつけながら保護者対応をするようにしていますが実際にはうまくいかない時もあり、その難しさを日々痛感しています。

これからも慢心する事なく、先輩や同僚のご指導を頂きながら仕事に携わっていきたいと思います。

つくしっ子ニュース！！

「全乳協会長表彰受賞の喜び」

和歌山乳児院　里親支援専門相談員
亀　山　美　幸

この度は、全乳協会長表彰を受賞させていただき誠にありがとうございます。

私にとってこの賞はこれまでの１５年を改めて振り返る貴重な機会となりました。

入職して１５年という年月の間に多くの方々と出会いました。特に、職場では上司や同僚の皆様に恵まれ、さまざまな支援をいただき、永年勤続表彰という節目を迎えられたという思いでいっぱいです。

心より感謝申し上げます。

私は、平成１９年より１５年間、乳児院で働かせていただいています。７年間、保育士として子ども達と触れ合い、子ども達から様々な事を学びました。それからは、里親支援専門相談員として、また違う立場で、子ども達や里親さんをサポートさせていただいています。乳児院では、様々な理由で保護者と一緒に暮らせない子どもがいますが、子どもと里親さん、それぞれの思いを伝えながら新しい家族へとつながっていく姿を近くで見届けられる事が、私にとって仕事でのやりがいであり喜びです。またその中で、多くのことを学び、たくさんの人と一緒に仕事ができたことが、私にとってのかけがえのない思い出です。

これまで温かく見守っていただいた皆様には心から感謝申し上げます。今後とも一層努力をしていきたいと思いますので、変わらぬご指導をお願いいたします。

つくしっ子ニュース！！

「和歌山県 白梅賞受賞の喜び」

つくしの里こども園　主任保育士
部　谷　匡　子

この度、白梅賞を頂き誠にありがとうございます。

そしてこの賞に推薦して頂く候補に、まだまだ若輩者の私のことを思い浮かべて頂けたことが何より嬉しく思います。

昭和６１年にご縁があり、つくし保育所に勤務させて頂くことになりました。その時代は産休・育休がまだ十分ではなかったことと、今でいうワンオペ育児でほとんど協力を得られなかったため、子育てに専念する期間を頂きながら今日まで勤めることができました。

そんな中、何度かの人生の岐路に立たされた時、子どもと関わるこの大好きな仕事を辞めずにここまで続けてこられたのは、理解ある上司と協力してくれた仲間がいたからだと思います。

そして“働くお母さん”として頑張ってこられたのも、子どもたちを保育所で保育（子育て）してくださった先生方がいらっしゃったからだと、誰よりも保育所のありがたさが身にしみる母でもあります。

長年つくし保育所・幼保園でお世話になり、つくしの里こども園に異動となりました。異動は初めての事でしたので、新しい人間関係を上手く築けるのだろうかと保育士らしからぬ不安を抱きながら、『その昔【人間五十年】と言われた時代の年で異動かぁ～、うまく再出発できるかなぁ…』と思いながら毎日岩出に向かっていました。

しかし、今では毎日可愛い子どもたちに会いたくて仕方がない自分がいて、そして協力してくれる心強い仲間がいて、異動の時の心配はどこかに行ってしまっていました。

そんなこんなを振り返っていると、私はこの仕事に・仲間に・つくし会に育ててもらってきたのだとあらためて実感しました。

育ててもらうばかりでまだ何も貢献できていない中、この素敵な賞を頂いたことに恐縮してしまいますが、「さらなる努力を見ていますよ。」という叱咤激励だと思い、有難く頂戴したいと思います。

私が就職した頃から保育環境や職場は良くなった面と、生きづらくなった面もあります。時代の流れと言ってしまえばそれで終わりですが、流れに乗るのか乗らないのか…。

先人の教えに耳を傾け新しいことを学ぶ探求心を持ち、人を育てる大切さ・難しさに真摯に向き合いながら、つくし会での経験を生かし、この賞に見合う仕事や関りができる人に成長していきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。本当にありがとうございました。

つくしっ子ニュース！！

令和4年度　和歌山つくし会 永年勤続表彰者

和歌山乳児院　１２名

勤続４０年	平　須　賀	主任里親支援員			
勤続３０年	長　谷　ノリ子	乳児部 主任			
勤続２０年	羽　津　靖　子	保育士			
勤続１５年	亀　山　美　幸	里親支援専門相談員			
勤続１０年	上　村　智　美	家庭支援専門相談員	油　谷　加　恵	保育士
	栗　本　喜　美	保育士	松　田　小百合	保育士
	木　村　千恵子	保育士	山　本　惠理子	保育士
勤続　５　年	前　坂　奈　菜	栄養士	尾　﨑　優　美	里親支援員

つくしの里こども園　４名

勤続４０年	溝　浦　美智子	園長		
勤続２５年	部　谷　匡　子	主任保育士		
勤続　５　年	上　山　茉利子	保育士	玉　置　弥　月	保育士

広瀬幼保園　５名

勤続３０年	森　美千代	副園長		
勤続２５年	在　塚　博　子	保育教諭	山　内　妙　子	保育教諭
勤続　５　年	井　関　景　子	保育教諭	南　本　有　佑	保育教諭

つくし幼保園　２名

勤続１０年	野　口　恵里那	保育教諭	上　岡　涼　子	保育教諭

つくし医療・福祉センター　４４名

勤続２５年	達谷　寛美	育成主任
	井関　　淳	訪問看護 管理者
勤続２０年	中屋　有理	介護福祉士
	宮井　陽子	療育課長
	田口　　寿	看護師
勤続１５年	林　　光代	保育士
勤続１０年	石原　恵美子	訪問看護 管理者
	板坂　茂子	看護師
	川口　由佳	相談支援員
	木村　舞里	薬剤主任
	島田　夫美	保育士
	小西　恵子	看護師
	浦　　万正子	看護師
勤続　５　年	峯本　晃子	看護師
	井畑　伸英	薬局長
	高橋　秩世	看護師
	穴井　志保	看護師
	高井　春美	看護師
	小西　亮平	介護福祉士
	原田　匡美	介護福祉士
	尾上　真一	指導員
	西村　美咲	作業療法士
	神末　昌典	介護福祉士
	田邊　和久	管理課長
	岩﨑　伸子	看護主任
	川野　琢也	リハビリテーション課 課長
	長　　信行	介護福祉士
	髙尾　瑞穂	介護福祉士
	仲谷　昭一	看護師
	林　　恵子	事務員
	小浦　由加里	地域在宅支援部 部長
	山本　亜希	看護師
	中前　鹿奈	療育部長
	大庭　由美	看護師
	冨永　小代里	保育士
	田井　春香	作業療法士
	井上　美保子	医師
	宮井　佳代子	看護師
	前川　裕子	看護師
	仲谷　奈尾美	介護福祉士
	上野　紀子	看護師
	巾下　みどり	介護福祉士
	桝田　香織	看護師
	伴　　義明	看護師

秋の運動会

第８回運動会を終えて　令和4年10月15日　つくしの里こども園

１０月１５日土曜日秋晴れの下、つくしの里こども園の運動会がつくし医療・福祉センターで開催されました。

０歳児は初めての運動会なので職員も心配していたのですが、そんな心配もどこへやら、体操の曲に合わせ身体を動かしたり、ポーズをとったり、楽しく参加できました。

１歳児は、お散歩ロープを持って行進できたこと、ポールをくぐったり、お山を登ったりと成長ぶりを見て頂けました。２歳児は、今年初めて鉄棒に挑戦したり、競技で大きな鬼にボールを投げたりと逞しい姿も見えました。保護者の方からは、子ども達の成長した姿が見られてとても嬉しかったとのお言葉も頂きました。

運動会を終えて、こども達は一回り成長してくれたように思います。

元気いっぱいの運動会！　令和4年10月2日　広瀬幼保園

和歌山市立広瀬小学校の運動場をお借りして、広瀬幼保園の運動会が開催されました。
暑いくらいの晴天の中、かけっこ・リレー・サーキット競技・親子競技・お遊戯・バルーン・組立体操など、みんな元気いっぱいの運動会でした。

もふもふ

つくしっ子ニュース！！

「愛嬌担当！サニーです」

広瀬幼保園　保育教諭
柏　木　千佳子

初めまして。
私はトイプードルのサニー。生後１ヶ月くらいの時にこの家に来たの。
その頃、お姉ちゃんが好きだったアイドルグループの愛嬌担当のメンバーの名前をもらったの。
年は１１才。人にすれば６０歳くらいなんだって。
最近では、白髪も増えてお肉もたるたる…
たるんできちゃった。
甘えん坊でご主人以外の人も犬も苦手だったけれど、この年にして人が好きになってきたの。
この家に来るお客さんの膝にものっちゃうんだ。
そして、なでなでしてもらうのが大好き！お母さんのお膝にはかなわないけどね。
お散歩も大好き！「行こうか！」っていう言葉をいつも待っているの。
お母さんが「お留守番は寂しいでしょ」と赤ちゃんの人形とアヒルのガー子ちゃんを買ってきてくれたの。
ガー子ちゃんが大きすぎて時々ベッドから放り出しちゃうんだけど…
サニー一家で今日もお留守番！早く帰ってきてくれないかな…

犬は未来についてあれこれ考える（理解する）ことがない。ただただ『今』という瞬間を生きている。寝たいから寝る。走りたいから走る。人間のように未来に対する不安や願望もないと聞きました。

犬の一生は人より遥かに短いです。病気にならないか・・・長生きしてもあと数年・・・と思い悩むこともありますが、とにかく『今』を大切に、愛情をたくさん注いで注いで共に楽しく過ごしていきたいと思います。

つくしっ子レポート！

「月野名誉院長先生、傘寿のお祝い申し上げます！」

和歌山つくし会　参与
林　　龍太郎

月野名誉院長、お元気に傘寿を迎えられ、誠におめでとうございます。

思い起こせば平成１６年、岩出療育園と桃山療護園を統合し、「和歌山つくし医療・福祉センター」の建設に向け、厚生労働省から、補助金を交付していただく条件として、地域支援活動が求められていました。

当時、リハビリの中西室長さんから、障害児者を支えていただける先生がおられるとのことをお伺いし、有田市民病院に勤務されていた月野先生をご紹介いただきました。

月野先生には、つくし医療・福祉センターの今後についての思いを伝えさせていただき、無理をお願いしまして、定年を前にご着任いただきました。本当にありがとうございました。

それから熱い思いで１７年。先日、医局において、先生の傘寿のお祝いの会を開催したところ、各先生方の月野先生への思いを拝聴し、誠に良き先輩であり恩師だと感じました。

だからこそ、ここ数年、重症児医療に関心を持っていただける先生方を導いていただけたと感謝しております。

これからもお体に留意してください。おめでとうございます。

つくしっ子レポート！

和歌山つくし会元監事　公認会計士・税理士 山中 静先生
「事務所開設70周年おめでとうございます！」

去る１２月４日にダイワロイネットホテルで和歌山つくし会元監事の山中静先生の事務所開設７０周年記念パーティーが開催されました。

先生には令和元年まで和歌山つくし会の監事を長年務めていただき、大変お世話になりました。

現在はご子息の山中 盛義先生に外部監査の予備検査をお願いしております。

静先生は御年９８歳ということですが、地域のためにつくしてこられたエネルギーは未だ健在！集まられた方々も和歌山県新・旧知事など、錚々たるメンバーで、スピーチや皆さんの思い出話などから先生のお人柄が偲ばれる、あたたかく楽しい会となりました。

今後の事務所業務はご子息の盛義先生に託されるそうですが、静先生のご健康と更なるご発展をお祈りいたします。

つくしっ子レポート！

「広瀬幼保園に新しい遊具がやって来ました！」

広瀬幼保園の園庭に、新しい木製遊具が設置されました。園児のみなさんは設置工事の様子を窓から眺めながら「早く新しい遊具で遊びたいな！」と心待ちにしていました。

ご覧ください！南仏コート・ダジュールの海岸沿いの街を思わせるような色使い、そして木のぬくもりと不思議にマッチした斬新なデザイン！理事長せんせいも一目で恋に落ちたそうです。

道行く人々からも「あれは何！？」と注目を浴びています。とても素敵ですね！

「さあ、いっぱい遊ぶぞー！」

和歌山乳児院クリスマス会　１２月２５日
「アンパンマン、ばいきんまんサンタがやってきた！」

１２月２５日、和歌山乳児院のクリスマス会にアンパンマンとばいきんまん、トナカイさんが来てくれました。今年はサンタさんが熱を出してしまったのでサンタさんは、アンパンマンとばいきんまんに子ども達のプレゼントを渡してもらうようにお願いしたそうです。いつも絵本やＤＶＤで見ている大好きなアンパンマンとばいきんまんですが、側で動いているのを見てびっくりして泣いちゃったり、恐々プレゼントを受け取ったりした子ども達でした。それでもアンパンマン達が帰った後には「アンパンマン来たな～」「ばいきんまんにプレゼントもらったな～」と笑顔で話してくれました。

アンパンマン「乳児院のみんなに会えてとっても嬉しかったよ」
ばいきんまん「俺様！ばいきんまん！プレゼント渡すことが出来て嬉しかったで～！ハッヒフッヘホ～」
また、遊びに来てね！

訃　　報

２０２２年１２月４日の「事務所開設７０周年記念パーティー」から程なくして、大変残念ながら山中　静 先生が亡くなられたというお知らせを頂きました。静先生、長い間「和歌山つくし会」を導いて頂きまして本当に有難うございました。和歌山つくし会一同、心よりお悔やみを申し上げます。

合 掌

編集後記

令和４年はコロナをはじめ、怒涛のように様々な出来事があり、１年が過ぎました。
その中で「和歌山つくし会」の皆さんは一丸となってあらゆることに対処してくださいましたね！くじけてしまいそうになったあの時。みんなで助け合い、また一つ強くなり、そして、より人にやさしくなった…。
この経験を令和５年度の新組織の中で活かしつつ、今後も「つくす」という理念を共に体現していきたいものです。今後ともよろしくお願いいたします。この令和５年が皆様にとって素晴らしい年となることを願って！

Forza!! フォルツァ!!（がんばろう！！）

つくしジャーナル編集部